

(様式1)

令和5年度 自 己 評 価 表

愛媛県立伊予高等学校
学校番号 (29)

教育方針	豊かな人間性を育てる教育の推進	重点目標	自らの力で、自らの未来を切り拓く生徒の育成 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して～
------	-----------------	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	分かる授業の展開	授業がよく分かる実感できる生徒100% A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：40%以上 E：30%未満	B	生徒の約8割、教員の9割が肯定的な評価を行っていることから、昨年度に引き続き、「分かる授業」が生徒と教員の共通の土台の上に成立している。	教科や学年が連携することで、生徒一人一人が興味・関心を持てるような授業内容の工夫を行い、生徒の授業に対する満足度を高める必要がある。
	主体的な学びの推進	課題を解決するため、意欲的に授業に取り組む生徒100% A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：50%以上 E：50%未満	B	約8割の生徒が、授業に対して課題意識を持って取り組んでいると答えていた。特に、専門教科や学校設定教科・科目については約9割の生徒が高い課題意識を持っており、一定の効果を上げている。	個に応じたコース選択や科目選択を行うことが、学力の向上、そして進路実現につながっていることを生徒に伝え、主体性を伸ばしていきたい。
生活指導	基本的な生活習慣の確立	あいさつのできる生徒100% A：100% B：80%以上 C：60%以上 D：40%以上 E：40%未満	B	コロナの時期と比べると、表情豊かに挨拶できる生徒が少しずつ増えてきた。 生徒は挨拶がよくできている(68%)と思っているが、保護者はあまりできていない(14%)と評価している。	良好な人間関係の基本は挨拶の励行であると捉え、学校生活全般において、生徒が自らすすんで気持ちよく挨拶ができるよう指導していきたい。
		5分前登校ができる生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	生徒や保護者は時間を守る意識が高いと思っているが、教員はそうのように思っていない。(あまり61%) 昨年度と比べて、5分前登校指導は改善傾向だが、本遅刻は増加傾向である。	学業不振(不安)、友人関係など比較的共感しやすい理由だけでなく、課題ができない、何となく足が向かないという生徒がコロナを境に確実に増えており、これらの生徒への対応を学校全体でしっかり行っていきたい。
		交通ルールを守る生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	生徒や保護者は交通ルール等の社会規範が守れていると思っているが、教員はそうのように思っていない。(あまり24%) 交通事故報告件数は昨年並みであった。	生徒や保護者に現状をしっかりと知ってもらうことが必要である。教員も学校生活のあらゆる場面で、生徒の命を守る指導を徹底していきたい。
	教育相談体制の充実	相談できる相手がいる生徒100% A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：70%以上 E：70%未満	B	「いじめ」等についてのアンケートで「私は、相談できる相手があります。」と回答した生徒は95%(昨年92%)だった。学校評価アンケートの「伊予高校では先生に悩みなどを相談しやすい雰囲気ができていると思いますか。」に対して「思う」「だいたい思う」が76%(昨年73%)だった。	「教育相談室から」を毎月発行し、教員を身近に感じて話しやすい雰囲気をつくったり、自分にとって話しやすく信頼できる相手に相談することを繰り返し伝えたりする。面接カウンセリング週間、スクールライフアドバイザーを効果的に活用する。
特別活動	学校行事の充実	生徒・保護者の学校行事への満足度100% A：95%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：65%以上 E：65%未満	C	新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたこともあり、昨年度以上にやりたいことができるようになった。活動の様子を保護者や地域の方へ公開できたことが生徒に充実感を持たせ意欲的な取り組みにつながったと考えられる。生徒は83%、保護者は81%が充実していると答えている。	運動会、文化祭ともに生徒の主体的な活動の場を増やすとともに、一般公開を行う。保護者、地域の方々に参加していただけるよう内容を更に見直し、活性化・レベルアップに努めていきたい。
	部活動の活性化	部活動をとおして心身を成長させることができたと思う生徒100% A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：75%以上 E：75%未満	B	部活動への加入率は高く、転・退部する生徒は少ない。再開された大会やコンクールに向けて生徒の活動意欲を喚起する指導者の工夫・研究が高評価につながったと考えられる。	部活動を手段として、どう将来に生かすことができるかを考えて取り組ませたい。生徒・保護者・教員が納得することのできる部活動運営を推進していきたい。
	ボランティア活動や地域のイベントへの意欲的な参加	ボランティア活動、地域交流などのイベントに年間10回以上参加 A：7回以上 B：5回以上 C：3回以上 D：1回以上 E：参加なし	D	低評価ではあるが、ボランティア活動や地域貢献活動が徐々に再開されており、参加意欲が高い生徒の活動の場が広がりつつある。能登半島地震に係る義援金集めのボランティア活動にも多くの生徒が参加することができた。	地元の地域交流行事への参加依頼も増えてきた。積極的に参加したり、「総合的な探究の時間」を生かすなどの工夫で、地域との連携を更に深めていきたい。

※ 評価は5段階(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)とする。

(様式1)

令和5年度 自 己 評 価 表

愛媛県立伊予高等学校

学校番号 (29)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学校魅力化	地域との連携	地域と連携した取組を行い、情報発信の回数が年間100件以上 A：80件以上 B：70件以上 C：60件以上 D：50件以上 E：50件未満	A	2月16日時点で122件と目標を達成することができた。今年度は学校公式インスタグラムを立ち上げSNSを通じた情報発信にも力を入れた。	生徒の活動を積極的に発信できた点については継続したい。中学校の説明会等を通じてSNSアカウントがあることを発信し、フォロワー数増加に取り組みたい。
	学校生活への充実感	伊予高に進学して良かったと思う生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	A	「よい」「どちらかというよい」と回答した生徒が92%となった。昨年度よりも良い結果であり、具体的目標として設定したAを達成した。	今年度の取組に一定の効果があったことを示していると思われる。今後も、一人一人を大切にされた指導を実践し、満足度100%を目指し、学校の魅力化につなげたい。
	学校見学会	本校の学校見学会への来校者500名以上 A：500名以上 B：450名以上 C：400名以上 D：350名以上 E：350名未満	A	今年度6、7、8月に計3回学校見学会を実施し、中学生375名、保護者・中学校教員139名の合計514名に参加していただき、目標を達成できた。	来年度も6、7、8月に3回実施する予定である。体験授業の内容などプログラムを改善し、本校の魅力を中学生に知ってもらえる機会にできるよう工夫したい。
進路指導	進路指導体制の充実	ホームルーム担任の個別面談を年6回以上実施 A：6回以上 B：4回以上 C：3回 D：2回 E：2回未満	B	学年やクラス差はあるものの、大半のホームルーム担任が、面談週間や進路希望調査等を利用し、科目選択や進路選択における重要なポイントで適宜実施できた。	必要な生徒に対して、回数にこだわらず柔軟に対応できるよう、進路課と学年が連携を取りながら実施していきたい。
		進路希望実現100% A：100% B：80%以上 C：60%以上 D：40%以上 E：40%未満	B	現段階で、ほとんどの生徒が4月当初の進路希望の第1、2志望校への進学が可能な状況であるが、まだ数名の生徒が進路実現に向けて今後も受験予定である。	安易な進路選択をしないような機会を捉えて情報提供を行うとともに、可能な限り早期の進路目標の設定を促していきたい。また、進路目標と現段階での学力差を把握させ、達成するための具体的な取組について助言していきたい。
		国公立大学合格10名、松山大学合格100名	C	地元志向の生徒が大半で、県外の国公立大学を挑戦する生徒がほぼいない状態である。松山大学の入試に関して現段階で目標は達成できている。	特に国公立大学については、1年次からこまめに面談を行い、受験に対する意識を醸成していく必要がある。また、総合・学校推薦型入試に向けた取組や指導を充実させるだけでなく、一般入試においても、学力向上とともに自分を信じて最後まで粘り強く受験に臨むことができるメンタルの育成を目指し、個々の生徒に応じた丁寧な指導をしていきたい。
人権教育	人権・同和教育の充実	人権意識が高揚したと実感した生徒100% A：100% B：85%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	学校評価アンケートで「人権・同和教育ホームルーム活動に積極的に参加できた」と「思う」「だいたい思う」と答えた生徒が97%（昨年91%）だった。また、3年生へのアンケートの「伊予高校での学習によって、あなたの人権問題に対する関心はどう変わりましたか」に対して「とても高まった」「ある程度高まった」と回答した生徒が94%（昨年90%）だった。	様々な活動の中で、生徒同士で互いの違いに気づき、認め合えるような雰囲気づくり、言葉掛けをする。自分の考えをまとめたり、他者の考えと比較したりできるように、月に一度の「人権デー」には、生徒に身近な人権問題を取り上げて発信する。
		自他の存在を大切に思える生徒100% A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：70%以上 E：70%未満	B	「いじめ」等についてのアンケートで「私は、自分のことを大切に思っています。」「私は、周囲の人たちのことを大切に思っています。」と回答した生徒はそれぞれ、97%、98%（昨年92%、97%）だった。	全ての生徒が自己肯定できるように、また、自他を大切に思えるように、認めたり励ましたりする。そのために、生徒の頑張りや活躍を見逃さず、教員同士で共有し、積極的に言葉掛けを行う。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

(様式1)

令和5年度 自 己 評 価 表

愛媛県立伊予高等学校

学校番号 (29)

読書指導	読書を通じた自己練磨	年間読書冊数 20冊 A : 20冊以上 B : 10冊以上 C : 5冊以上 D : 1冊以上 E : 0冊	C	3学年全体の平均読書冊数は7.9冊で、目標は達成できなかった。年間20冊以上を達成できた生徒は12%で昨年度から微増している。一方朝読書を実施しているにも関わらず読書冊数0冊と答える生徒が11%おり、こちらも昨年度と比べ割合がわずかに増加している。	読書の習慣が定着していない生徒にとっては朝読書の時間が重要な読書の機会になっていると思われる。朝読書の在り方について検討したい。また、具体的目標を改定してから2年続けての評価「C」である。目標の設定が適切かどうかとも検証し、生徒の読書の質と量の向上に向けて取り組んでいきたい。
業務改善	教職員の業務と職場環境の改善	業務の効率化と職場環境の改善が進んでいると感じる教職員100%以上 A : 90%以上 B : 80%以上 C : 70%以上 D : 60%以上 E : 60%未満	A	業務の効率化、及び職場環境の改善に関して、教職員の要望を生かしながら取り組み、一定の成果を得ることができた。	今後についても、教職員からの意見を参考に、働きやすい職場づくりを目標に業務の効率化、環境の改善に取り組みたい。

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。